

日本遺産に認定されている 4つのストーリー

日本遺産とは、国内の各地域に点在する史跡や伝統芸能など、有形や無形の文化財をパッケージ化し、歴史的な魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーとして文化庁が認定するものです。山梨県では4つのストーリーが日本遺産に認定されています。

葡萄畑が織りなす 風景

—山梨県峡東地域—

山梨市/笛吹市/甲州市

甲府盆地の東部は平坦地から傾斜地まで葡萄畑が広がり、初夏には深碧の絨緞（じゅうたん）、秋には紅葉の濃淡が日に映え、季節ごとにさまざまな風景を魅せてくれます。

奈良時代から始まったとも伝えられる葡萄栽培は、先人たちの知恵と工夫により、かつて水田や桑畑だった土地を一面の葡萄畑に変え、またその葡萄畑に育まれたワインは日常のお酒として地域に根付きました。今も歴史を語る技術や建物は受け継がれ、葡萄畑の風景の中に溶け込んでいます。



甲州市勝沼地域のフルーツライン付近から望むブドウ畑



巨岩や奇石などを有し、希少な造形美を形成する昇仙峡

星降る中部高地の 縄文世界

—数千年を遡る黒曜石鉾山と縄文人に出会う旅—

山梨県 甲府市/韮崎市/南アルプス市/
北杜市/笛吹市/甲州市

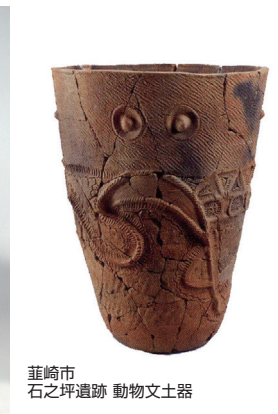
長野県 茅野市/富士見町/原村/諏訪市/
岡谷市/下諏訪町/長和町/川上村

日本の真ん中、八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉾山があります。鉾山の森に足を踏み入れると、そこには縄文人が掘り出したキラキラ耀（かがや）く黒曜石のカケラが一面に散らばり、星降る里として言い伝えられてきました。日本最古のブランド「黒曜石」は、最高級の矢じりの材料として日本の各地にもたらされました。

麓のムラで作られた、ヒトや森に生きる動物を描いた土器やヴィーナス土偶を見ると、縄文人の高い芸術性に驚かされ、黒曜石や山の幸に恵まれて繁栄した縄文人を身近に感じることができます。



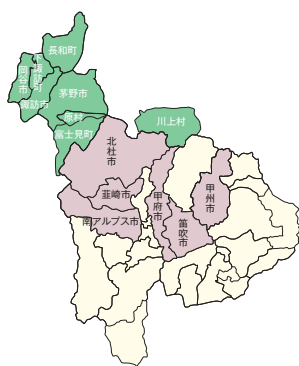
甲府市
上野原遺跡 水煙文土器



韮崎市
石之坪遺跡 動物文土器



南アルプス市
鑄物師屋遺跡 人体文土器



北杜市
津金御所前遺跡 出産文土器



甲州市
殿林遺跡 深鉢型土器



旧宮崎葡萄酒醸造場施設（宮光園）



宮光園での醸造作業風景



大黒天印甲斐産葡萄酒と甲斐産エビ葡萄酒



甲州市内の和風建築のワイナリー

甲州の匠の源流・ 御嶽昇仙峡

—水晶の鼓動が導いた信仰と技、そして先進技術へ—

甲府市/甲斐市

昇仙峡一帯の山地は、水の塊と信じられていた水晶を産出する水源信仰の地であり、地域を流れる荒川上流を訪ねると大小の滝や巨岩、奇石を見ることができます。水がつくった芸術品ともいえる渓谷美は、地域の人々により日本有数の景勝地として磨き上げられました。

また、産出された水晶と匠の技として伝承される加工技術は、日本一のジュエリー産業の基盤になりました。さらにその加工技術は人工水晶製造技術へとつながり、電子機器などに使用されるなど、現代に至る私たちの生活を支えています。

日本ワイン 140年史

—国産ブドウで醸造する和文化の結晶—

山梨県 甲州市 茨城県 牛久市

国産ブドウを原料とし、国内で醸造される日本ワイン。その140年にわたる歴史において、甲州市の勝沼地域では、地元のブドウ農家と共存繁栄を図ることで、広大なブドウ畑と新旧30ものワイナリーが誕生しました。また、茨城県牛久市の牛久シャトーは、大規模な醸造体制を確立しました。

明治の文明開化期、国営では果たせなかったワイン醸造を、それぞれの地域の特性を生かして、民間の力で成し遂げたのです。

日本のワイン文化の広がりに貢献した2つのまちに息づく歴史を知れば、ワインの味わいもより深くなることでしょう。